

多面的機能だより

春号 (第34回)

平成28年3月3日

いしかわ多面的機能発揮推進組織

多面的機能支払交付金制度の取り組みも、多くの皆様方のご理解をいただき順調に推移いたしております。今年度は新たに86組織が参加され、588組織となりました。農地維持活動並びに資源向上活動をとおして農業の多面的機能の維持・発揮に寄与しています。

今回の多面的機能だよりは、活動組織から寄せられた4組織の活動を紹介します。各組織の構成員の皆さんに、回覧等で広くお伝えいただければ幸いです。

■能登町における広域組織の設立について

奥能登支部【能登町広域協定運営委員会】

能登町地内において、平成26年12月に12組織が参加し、広域組織（能登町広域協定運営委員会）を設立しました。平成27年6月には、同組織へ更に57組織が加わり、トータル69組織（田827ha、畑79ha）で編成されております。本年4月から役場農林水産課内に専従事務員2名を雇用し、各組織の事務支援を行っております。説明会の開催や現地確認及び加入申請書類の作成等に大変苦勞しましたが、いしかわ多面的機能発揮推進組織及び県の指導のおかげで、本日を迎えることが出来ました。

近年、町内において、イノシシ被害が急速に拡大しているため、鳥獣被害防止用電気柵の設置及び撤去の人夫賃や鳥獣被害の見回り費用など本交付金を有効に活用しております。



電気柵の設置作業

■「多面的機能交付金が我町を救う」

南加賀支部【塩浜町農地維持組合】

塩浜町には先祖伝来の田圃が約33町歩あり、今から20～30年前までは、約80戸の農家が兼業ではあるが稲作に従事し、四季に合わせ共同作業で田圃を中心とした用排水路・ため池・農道等の維持管理に努め、美しく機能的な農村の景観を保ってきた。そのような環境の中で、大人も子供も平穩に暮らし、実りの秋には町を挙げて豊作を祝ってきた。

しかしながら、年を経る毎に田圃を取り巻く人的環境が大きく変わってきました。我塩浜町もご多分にもれず、少子高齢化や就業形態の変化等により、農業後継者の激減・農業従事者の高齢化の影響が年々顕著になってきました。即ち、先祖伝来の田畑や給排水路・ため池・農道等の維持管理が年々困難になり、老朽化や荒廃の度合いが目につくようになりました。以前の農村の持つ豊かな自然環境・農業環境の保全（田畑の維持管理）が町の大きな課題となりました。生産組合を中心にその対策に頭を悩ます日々が続きました。生産組合が企画実施する江堀・草刈・農道整備等の共同作業に参加する人数も年々減少且つ高齢化し、作業量も徐々に低下し農村としての本来の機能を維持することがとても困難になってきました。数年先の展望も持てない状況に陥りました。

この様な時、市の担当者より多面的機能支払交付金（農地維持支払交付金）制度についてのご案内をいただき、まさに我塩浜町の現状に合致し、農地維持管理の諸課題を解決する最良の制度と受け止めました。

まず、パンフレットや要項・先進地の先行事例等をもとに役員の研修を重ね、農家以外の全町民を対象とした戸主会議（本事業の設立総会）

で同制度の趣旨や活動内容を説明し、農家以外の方の参加同意も得ました。組織・規約・同意書・年間活動計画・認定用地一覧等々必要書類を整え本年度、どうにか申請の手続きをとり、認可いただきました。

この制度の活用による1年目の成果として、

- ◎従来の農家（地権者）の一部による農地維持管理のための諸作業（給排水路の整備・農道の整備・ため池の整備・草刈等々）を農家以外の一般町民にも広げることができた。農家以外の参加者や若年層の参加者も増え、作業効率や成果が上がった。
- ◎農家と一般住民との交流が深まり、町民同士の結束が強くなった。
- ◎面積に応じた交付金（約1,000,000円）は、町の財政を助け、農家や住民の補修費等の負担額軽減につながった。また、精神的に余裕を持って作業等に励むことができるようになった。
- ◎その他、電話連絡・印刷・コピー等報告資料作成費、会議のための公民館使用料等、事業推進に当たっての諸経費の配慮は嬉しい限りである。5年間の事業なので、活動内容や方法を工夫し、本事業の趣旨を生かし我町の発展につなげたい



農業用水路の泥上げ作業の風景

■景観形成のための植栽活動について

奥能登支部【横山環境保全会活動組織】

狼煙町横山地内において、地域住民の協力の下、地域農業者18人・婦人会団体8名が参加し、景観形成のための植栽活動として調整池際に菜の花の播種に取組みました。横山環境保全会は、県営ほ場整備事業（日置東部地区）をきっかけとして、多面的機能支払交付金事業に取り組み、施設の維持管理における草刈りや基盤整備以外の管理水路の軽微な補修に取り組んでいる。地区としては、景観形成にも力を入れており、菜の花以外にも農用地の法面等にも蕎麦の播種等も行われている。菜の花については油及び蕎麦については、集落内での親睦を図るひとつのきっかけづくりとして取り組んで行きたいと考えている。



菜の花の播種



集合写真

■移り行く時節の中で

県央支部【袋島町農業促進会】

戦後の食糧不足の解消を担うため、稲作、麦作、野菜作りに全町民が従事した。

日本経済の高度成長期を迎え、農外所得を求め離農者が増加すると同時に農地の宅地化が進んでいった。また公共施設（陸上競技場、産業展示館、河川改修、道路拡張）にも多くの農地が提供された。

そのような中、先人達の築いてきた農地を維持管理するため袋島農業促進会は発足した。農地区画確保・用排水施設整備管理等、農用地としての環境整備することを目的とした。また、JA・行政の指導のもと、後継者の育成やコスト削減農業への取り組みも行っていく。

次世代へ、より良い農業環境とポリシーを残し伝えたい。



堀切実演



生育調査

【編集後記】

平成 27 年度の活動も残り 1 ヶ月になりました。皆様には今年度の活動その他行事などでご苦労されたことも多かったことと思います。各組織とも平成 27 年度の最後の活動、実施状況報告のとりまとめなどでお忙しいことと存じますがよろしくお願ひします。

来年度も農業の多面的機能の維持・発揮のための地域活動の取組をより詳しくご紹介させていただきたく、これからも推進組織の事業の一環として「多面的機能だより」を継続してまいりたいと考えておりますのでご協力お願ひいたします。

〒920-0362 石川県金沢市古府 1 丁目 197 番地 石川県土地改良事業団体連合会内

いしかわ農地・水・環境協議会

事務局：角本 雅成

TEL・FAX：076-249-8191

E-mail：ishikawa@shigenhozen.jp